

東日本大震災に係る復興支援及び福祉施策などに対する要望書を提出

本会では宮城県内の福祉関係団体から要望を取りまとめ、平成25年8月29日に宮城県保健福祉部社会福祉課に対し、国及び宮城県に対する要望書を提出しました。同日付けで、全国社会福祉協議会へも要望書を提出しています。内容としては、東日本大震災に関する要望が4項目、福祉施策などに関する要望が6項目となっています。要望事項については、回答が届け次第、ホームページなどで報告します。

たくさんの真心ありがとうございます

下記の方々から本会に寄附金・支援金をいただきました。本当にありがとうございました。(平成25年8月末現在)
平成25年7月19日株式会社河北新報社さまより
法人のために…………… 102,404円
東日本大震災に関する支援金
平成25年7月2日株式会社ブリッジさまより … 53,873円
平成25年8月2日株式会社ブリッジさまより … 53,510円
皆さまから寄せいただいた支援金は東日本大震災による復興支援のために活用させていただきます。

赤い羽根共同募金にご協力ください

共同募金運動は、10月1日より全国で一斉に行われます。皆さんの大切な“意志のあるお金”は、県内の社会福祉施設・福祉関係団体・社会福祉協議会などが行う在宅福祉サービス事業やボランティア育成事業などの事業費として役立てられるとともに、住みよい福祉のまちづくりに大きな役割を果たしています。なお12月は歳末たすけあい募金も併せて行います。ご協力をお願いします。

問い合わせ/社会福祉法人宮城県共同募金会
TEL/022(292)5001 FAX/022(292)5002

日本福祉大学から研修のお知らせ

介護の対象者はさまざまな健康状態を呈することから、介護者には医療従事者との連携、医療的知識の習得が求められています。今回、介護職に従事している方を対象に、実践的な知識、観察力を養うための「現場で活用できる医学知識の研修会」を開催します。

講師/板部美紀子氏
日時/平成25年11月9日(土)10時から15時30分
場所/ショーケー本館ビル 仙台市青葉区五橋二丁目11-1
受講料/5,000円
問い合わせ/日本福祉大学 山形最上オフィス
TEL 0233(43)9232

オススメ製品のご紹介

NPO法人みやぎセルフ協働受注センターでは、働く障害者の方々に応援しています!
URL <http://www.miyagi-selp.org>

県内の障害者就労支援事業所で作るオススメの製品を紹介します。

●モアイはがき・モアイタオル

震災で多くを失いましたが、国内・世界中の皆様からたくさんのご支援を賜り、中でも牛乳・酒パックを原材料にする紙すき作業は、活動の主力となっています。「モアイはがき」と「モアイタオル」は、



▲モアイはがき各5色(赤・紫・緑・水色・黄緑) 5枚入り¥500(左)
モアイタオル(グレー・ホワイト) 1枚 ¥1,050(右)

今年5月にイースター島から南三陸町へ届いたモアイを、利用者さんがイメージ&デザインした商品です!本物には似てないけど、なぜか癒されるデザインは老若男女を問わず好評を得ています。皆様、この機会に是非お買い求め下さい!

●手織り雑貨

ひまわりホームではさをり織りをはじめ、さまざまな手織り製品を製作しています。季節や、自分の気持ちを織り込みながら毎日反物を生み出しています。同じ物は二つとないので、素敵なものに出会えたら、ぜひ迷わずお手に取って見てください。手織りならではの優しい風合いや、一つ一つ違った表情をお楽しみいただけます。

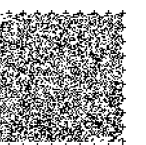
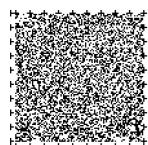


▲手織り製品

大量生産はできませんが、プレゼントや催し物などございましたらお早めにご注文いただければ、オーダーも承ります。

社会福祉法人 洗心会 のぞみ福祉作業所
〒986-0717 本吉郡南三陸町志津川字袖浜93-1
TEL/0226(46)5129 FAX/0226(29)6858

岩沼市障害者地域就労支援センターひまわりホーム
〒989-2427 岩沼市里の杜3丁目5-22
TEL/0223(24)5841 FAX/0223(24)5842
✉ himawari-home@io.ocn.ne.jp
URL/ <http://www10.ocn.ne.jp/~iwanuma/>



復興 被災地のいま

共に前に進むパートナーとして

名取市社会福祉協議会

名取市は東日本大震災により大きな被害を受け、現在も多くの方々が仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。市内には7カ所889戸の応急仮設住宅があり、708世帯1683人の方々が生活されています。また、雇用促進住宅や県営住宅、民間の賃貸住宅などの県借上住宅にお住まいの方々は777世帯2248人にのぼります。(平成25年6月25日現在)

名取市では、県営住宅、県借上げ住宅にお住まいの方々が在宅被災者の方々については名取市直営の「名取市サポートセンター」(どつと、なとり)が、応急仮設住宅と雇用促進住宅については名取市社会福祉協議会が運営する「なとり復興支援センター(ひより)」がそれぞれ役割をわけ、支



援活動を行っています。【なとり復興支援センター(ひより)】は応急仮設住宅にお住まいの方々を対象にイベントなどのボランティアコーディネートや生活上の相談に応じるなど、復興へ向けた支援活動を行っています。現在3人のコーディネーター、14人の生活支援相談員があり、相談員はそれぞれ2人一組となり各仮設住宅の集会所に常駐しています。活動としては、お住まいの方々からの相談対応、仮設住宅自治組織への連絡調整、各世帯への個別訪問、集会所でのボランティアイベントへの対応などがあります。【ひより】の特徴としては、職員が仮設住宅に常駐している点があげら

れます。このような形で支援活動を実施している市町村は少なく、宮城県内でもほとんどありません。それでも【ひより】が常駐を行うのは、「常に住民の皆さんと共にあり、日常生活の中で頼れるパートナーになりたい」という思いがあるからです。名取市社協が災害ボランティアセンターを運営していた際、合言葉としていた「一人じゃないよ」一緒にがんばろう!!という当時の思いが、現在の【ひより】の運営にも受け継がれています。名取市は、今年秋頃の認可に向けて土地区画整理事業に取り組んでおり、遅れていた閑上地区の復興計画も少しずつ進み始めています。しかしながら、実際に住民の方が入居できるのは平成28年春以降の予定となっております。仮設住宅での生活は今後も長期にわたります。



具体的な計画が見えてきたからこそ感じるこれから先の年月の長さや、閑上地区へ戻ることの不安、生まれ育った地域への愛着など、住民の皆さんは複雑な思いを抱え生活されています。そのような思いから、心身の健康や生活に影響が生じている方も少なくありません。常駐している相談員に対し、解決できないような苦しみ、不安を住民の方から訴えられることも多々あります。相談員は日々悩みながらも、そういった声一つ一つに向き合っています。相談員が各仮設に2人配置されているのも、こうした状況を踏まえたものであり、複数の視点から支援を行えるように、また支援を行う相談員自身の悩みや不安を共有できるようにと検討した結果です。震災から2年半が過ぎ、住民の皆さんが抱える思いはより深刻に、より複雑になっていきます。不安を感じ、悩み、苦しんでいる方々がたくさんいます。【なとり復興支援センター(ひより)】は、そういった方々の支えとなるべく、関係機関や民生委員と連携を深め、住民の皆さんと共に復興へ向け歩み続けます。(寄稿)